

## オムロン株式会社 2024年度1Q決算 投資家様向けウェブ・電話説明会 質疑応答（サマリー）

### <全社>

Q：人員数最適化・固定費生産性向上等の構造改革の進捗と、年間での収益寄与の程度について教えてほしい。

A：人員数最適化について、国内はすべて完了。海外は一部を2Q以降に残すものの概ね完了しており、計画通り進捗。その他の固定費生産性向上の取り組み計画通り進捗。構造改革による年間の固定費削減額は期初計画と同じ240億円を見込む。

Q：対前四半期でGP率が大きく改善しているが、2Q以降の見立てについて教えてほしい。

A：GP率の改善は主に、適正な調達コントロールによる在庫の評価減に伴うもので、計画よりも若干順調に進んでいる。4Qは事業ミックスによる季節性の低下を想定するが、その他、2Q以降においてGP率低下につながる要素は現時点では認識していない。

### <制御機器事業>

Q：営業利益が対前四半期で好調となった背景は？

A：GP率の改善が主な要因。具体的には在庫評価損の減少や物流費の効率化、プロダクトミックスの改善など。

Q：1Qの受注水準は、前年同期と同等の水準に戻ってきているが、2Q以降はどのように見ているのか？

A：期初の計画では、3Qから緩やかに回復、4Qから本格的な回復と見ており現時点では大きな変化はない。半導体業界は顧客によって受注の回復時期にばらつきが出ていると認識しており、顧客毎の動向をしっかりと見極めていきたい。

Q：中国での競争環境が激化している中でも、1Q業績は通常の季節性に基づいたしっかりとした数字が出ている印象。どのように競合メーカーと戦っているのか？

A：IABの競争優位性は、高度な制御技術に支えられたソリューションであると考えている。中国においても、半導体業界を中心とした高度制御が求められる需要についてはしっかり捉えられていると認識している。一方、価格競争が激しくなっている製品領域については、シェアの高い商品やソリューションとの親和性の高い商品の開発、投入を強化していく。

### <データソリューション事業>

Q：JMDC社とのシナジーについて、何か新しい進展や成果などがあれば教えてほしい。

A：複数のテーマを進めている。例えば、SSBのマネジメント&サービス事業において、顧客の現場情報を利用したオペレーションの効率化や売上に寄与するソリューション開発を進めている。この他、2Q以降加速させていくテーマもあり、詳細については、今年秋頃に開催予定の説明会にて別途ご紹介させていただきたい。